

アジアとIMF：より深い関係の構築を目指して

2009年11月12日付 IMF ダイレクト

最新情報：ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事、シンガポールと北京で演説。シンガポールでは、アジアのリーダーとしての役割について、また北京では、景気後退局面からの脱却においていかにして中国が世界を牽引しているか、そしてダイナミックな中国経済の実現に向けたさらなる改革の必要性について述べた。

アヌープ・シン

アジアの地位と影響力が強まっています。IMF は、アジア地域が世界危機から回復するうえで、その経済的潜在力をフルに発揮できるよう同地域と協力しています。ドミニク・ストロスカーン IMF 専務理事は、11月中旬に 6日間に渡るアジア訪問を開始します。シンガポールに滞在中の同専務理事は、第16回アジア太平洋経済協力(APEC)財務大臣会合に出席し、その後11月16、17日の両日、アジアで最も躍進を遂げている国の一つである中国を訪問する予定です。

シンガポールでは、ストロスカーン専務理事は、アジア地域が直面している経済政策上の問題に関するラウンドテーブルの共同議長を務めるほか、危機後の世界経済の再構築におけるアジアの役割について講演を行います。中国では、政策当局と世界危機対策について協議を行うほか、政府高官より中国経済と世界経済の見通しについて見解を聞く予定です。

世界危機からの脱却をアジアが先導しているという状況の中での今回の訪問は、IMF が同地域との関係を重要視していることを改めて示すものであり、アジアとIMF の関係を一段と深化させるための機会とも言えるでしょう。

アジアは世界経済の回復に大きく貢献しているのみならず、危機に取り組む他の加盟国への支援として多額の資金をIMF に拠出しました。

- 第一に、先日ソウルと東京で発表された 2009 年 10 月の[アジア太平洋地域経済見通し](#)が強調している通り、アジア各国は、危機対策として強力な景気刺激策を推進したことで、世界経済の回復に貢献しました。
- 多くの国において中期的成長の原動力を再検証すべきだという認識が高まりつつあります。中国の温家宝首相が先日述べたように、中国は「消費を刺激し、特に経済成長の主軸である個人消費をはじめとした内需の創出に多大な努力」を重ねてきました。また、シンガポール通貨監督庁のハン・スウィ・キート長官は最近、次のような見解を示しています。「持続的成長の実現には、広大な国内市場を有するアジアの国々が内需拡大にむけ構造改革を引き続き行うことが肝要である……。自国の潜在成長力を最大限に引き出すために、大半のアジアの新興市場国では、企業部門、公共インフラ、教育、保健への新規投資を促進する策が必要となるだろう」。成長の軸足をより内需依存型にすることで、やがては、危機の震源地となっている先進国からの輸出需要の落ち込みを相殺することができるでしょう。
- アジアの国々は、IMF の財源の拡充に重要かつ触媒的な役割を果たしてきました。経済危機が発生して間もなく、[日本政府は 1,000 億ドルを拠出し](#)、危機の間に利用できる IMF の融資財源を補完しその拡大を実現しました。IMF 加盟国が単独で行ったものとしては最大規模のこの資金提供は、他の加盟国からの資金供出の呼び水となると共に、日本が引き続き世界経済で主導的役割を果たしていることを示すものとなりました。[新規借入取極 \(NAB\)](#) やノート・パーチェス・アグリーメント (債券購入契約: NPA) を活用したアジア各国の拠出額は、1,780 億ドル増加しました。これには、中国の 500 億ドル、インド及び韓国の各々 100 億ドル、そしてシンガポールの 20 億ドルのコミットメントが含まれます。
- また先日、インド準備銀行が IMF の保有する[金 200 トンを 67 億ドルで購入](#)しました。これは、2009 年 9 月に [IMF 理事会が承認した](#)売却量 403.3 トンのおよそ半分にあたります。こ

の取引は、長期にわたり健全な IMF の財政基盤の確立に貢献すると共に、その資金を補助金財源に回すことで、最貧国向けの譲許的融資の大幅な拡大が可能となります。

IMF は、アジアの声を汲み取るための取り組みを拡大しています。その一環として、アジア各地の第一人者で構成される新たな諮問グループの設立が挙げられますが、その設立総会がストロスカーン専務理事の主催で今週末にシンガポールで開催されるのは大きな前進だといえましょう。 IMF は、アジアが直面する経済上の課題や、その対策に取り組む各国への最善の支援のあり方について、見解を求めることになるでしょう。

実際、IMF はすでにアジア加盟国のニーズに応えるべく状況に合わせ変化しています。

- IMF の世界的な役割の例として、その重要な責務の一つである[サーベイランス](#)を見てみましょう。世界金融危機という重大な局面では、他国の政策当局の施策・方針に関する情報をタイムリーに入手することが重要です。これを踏まえ IMF は、ほぼ全世界にまたがる加盟国から集めた情報を活用し、アジア内外の国境を越えたクロスカントリーな視点を分析に取り入れました。これにより、アジア地域の政策担当者は、これまで以上に広いグローバルな視点や世界各国の経済担当チームの分析にアクセスができるようになりました。この違いを認識する声は、ターマン・シャンムガラトナム・シンガポール蔵相などアジア各地で聞かれるようになりました([YouTube ビデオ参照](#))。
- 加えて IMF は、借入国の状況に一段と適応できるよう、[融資制度](#)の改革を行いました。例えば、今年前半に「例外的アクセス」を認めた融資を[モンゴル](#)に行い、同国が国際収支危機を引き起こす危険性を回避しました。このような危機に発展した場合には社会サービス的大幅削減を余儀なくされたことでしょう。しかし、今やモンゴルの金融市場は安定し、資本流出が逆転し、インフレも低下しているのです。